

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	百貨店（営業担当）	・能登半島地震による乗客数の落ち込みは大きいですが、この後遺症は徐々に回復し、数か月後にはかなりの水準に戻る。
	やや良くなる	一般小売店〔精肉〕（店長）	・能登半島地震の影響で消費動向は一時的に落ちたが、今後は買い回り客の増加で良くなる。
		百貨店（営業担当）	・消費の大きな流れとしては、これから始まる団塊世代の大量退職がある。退職者に対して余暇の提案を行うことにより、旅行や健康などの関連商品が動く。
		家電量販店（店員）	・5月に当社の1店舗が市内にオープンし、協賛セールを行う。これに対抗し、ライバル店でも種々の仕掛けを行うため、客の購買力は上昇する。
		乗用車販売店（総務担当）	・5月には主力のセダンがモデルチェンジする。当社にとって本年最大の量販車の新型であり、また団塊世代をもターゲットにしているため、大きな受注がある。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	・ごみ袋、洗剤など生活用品の売上は堅調に推移しており、景気は今後も緩やかに上昇する。
		タクシー運転手	・新年度に入り、歓迎会や行楽などで忙しい時期になる。客の会話からは、前年以上のタクシー利用が期待できる。
		通信会社（営業担当）	・携帯電話は売れない時期に向かうが、4月から実施する機種変更の優遇施策により、変更台数の増加が期待できる。
		住宅販売会社（従業員）	・景気の底固さを実感している客層が増えている。若い人でも住宅取得の意欲が高まってきている。
	変わらない	一般小売店〔書籍〕（店長）	・顧客の様子から見て、景気の回復傾向が見えない。
		一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	・価格競争がますます激しくなっているが、先日の能登半島地震の影響で耐震工事やセキュリティー関係のニーズが若干でも出てくることを期待している。
		百貨店（営業担当）	・これからの婦人服は春物ではなく初夏物が前倒しで登場する。能登半島地震の余震が続くなか、ゴールデンウィークの旅行や母の日のプレゼントなどに向けて、消費者のモチベーションは徐々に回復していく。
		スーパー（店長）	・客単価の低下に歯止めが掛かり、徐々にではあるが上昇傾向が見られる。
		スーパー（店長）	・売上の前年実績の維持が難しくなっており、今後2、3か月も同様である。また、気温の変化が読みづらく、衣料品を中心とした売上の確保が厳しい。
		スーパー（総務担当）	・製造業関連の求人が多いためか、食品スーパーやホームセンターでパート、アルバイトの募集をしても応募者が少ない。
		コンビニ（経営者）	・6月から北信越野球リーグが近くの野球場で開催されるため、当店への来場者は増加する。しかし、試合数が少ないため、その効果は限定的と思われる。
		乗用車販売店（営業担当）	・来場者数は前年比約5%減少したが、この動きから見て今後もあまり変わらない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・石油販売業界の過当競争はしばらく続く。
		観光型旅館（経営者）	・旅行社の企画する宿泊内容には少しずつ高額商品が登場しており、景気の上昇傾向が感じられる。しかし、先日の能登半島地震の影響、風評被害が心配である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・5月以降の一般宴会の受注状況が低迷していることに加え、能登半島地震の影響がいつ回復するか分からない。しばらくは低迷する。
都市型ホテル（スタッフ）		・予約は前年の水準を下回っている。	
旅行代理店（従業員）	・能登半島地震の影響もあり、旅行の自粛傾向が懸念される。		
通信会社（社員）	・携帯電話の番号ポータビリティの需要が落ち着き、例年並みの販売量が見込まれる。		
住宅販売会社（総務担当）	・地価に下げ止まり感が見え、今後の不動産の動きが注目される。		
やや悪くなる	百貨店（売場主任）	・地域性もあるが、能登半島地震の影響が短期的には解消されそうにない。	
	百貨店（売場担当）	・乗客数はここ数か月連続でやや落ち込んでおり、回復の兆しを感じられない。	

		コンビニ（店長）	・暖冬による好影響が、今後は平常に戻る。また朝の売上が減少している点も懸念材料である。
		家電量販店（経営者）	・テレビの売行きが低調になり、パソコンも期待できず、他に全体を持ち上げていく商品が見当たらない。
		乗用車販売店（経営者）	・春の商戦は不調のまま終わるが、当分は車の小型化志向が続くとみられ、普通車や高級輸入車の先行きは暗い。
		高級レストラン（スタッフ）	・能登半島地震による風評被害などが収まるまでは厳しい状況が続く。
		一般レストラン（スタッフ）	・6月には駅前に飲食ゾーンとホテルがオープンする予定であり、先般オープンしたショッピングセンターと合わせ駅前の開発が進んでいる。客もオープン景気で駅前に流れると予測され、従業員の雇用も一層難しくなる。また、今回の能登半島地震で、観光を地場産業としている地元にとっては打撃となる。
		スナック（経営者）	・客の会話を聞くと、景気の先行きは“一進一退”で、明るい方向性があまり感じ取れない。
		観光型旅館（スタッフ）	・能登半島地震が起きた周辺地域では、風評による旅行の取り止めが発生する。
		通信会社（役員）	・19年度上半期はケーブルテレビの契約増に結び付くイベント等の要因が少なく、最近の低調傾向が当面続く。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅ローン金利の上昇や材料関係の軒並み高騰にもかかわらず、駆け込みを含めた需要の盛り上がりが見えない。
	悪くなる	一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	・能登半島地震により、周辺地区の売上が今後数か月間見込めなくなった。また、諸会合の自粛ムードも高まってきている。
		旅行代理店（従業員）	・能登半島地震の影響で、個人、法人（団体）とも旅行に自粛の動きが出る。
		テーマパーク（職員）	・能登半島地震の直接的な被害は無かったが、今後風評被害が生じる懸念があり、来場者数の減少など厳しい状況が予想される。
		その他レジャー施設（職員）	・能登半島地震により、春休みの来客数が減っている。今後、特に宿泊客の減少が心配である。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	一般機械器具製造業（経営者）	・毎年度末に多い駆け込み受注や客先からの発注について、今年は1月末から3月初めにかけて繰り上がったため、先行きの落ち込みはなさそうである。業界全体として12月に受注が若干減少したが、2、3月にかけて回復しており、今後も良くなる。
	変わらない	繊維工業（経営者）	・受注の先行きは不透明感が強く、不安定な状況が続く。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・ヒット商品が見当たらない。
		精密機械器具製造業（経営者）	・当社の受注量全体としては当初の計画以上に増えてきており、目下増産準備中である。一方、国内小売業態としてはワンプライスショップの台頭など、眼鏡産地にとってはますます厳しい環境になってきている。
		輸送業（配車担当）	・運送会社として、コスト削減に限界が来ており、運賃値上げの見込みが無い以上、現状は変わらない。
		通信業（営業担当）	・今は年度末ということもあり、取引先の動きは若干上向いているが、実態は暖冬での先出し需要と思われ、これから徐々に落ち着く。
		不動産業（経営者）	・不動産の価格もかなり落ち着き、販売量も横ばいで推移しているが、この状態が続く。
		司法書士	・中心部の土地の売買に底値感はあるが、具体的な契約成立の話はあまり無い。多重債務関係では、過払い金請求事件の増加に対し、返済資金が続かない貸金業者が出てきている。
	やや悪くなる	食料品製造業（企画担当）	・主原料、副原料価格の高騰が進む。主原料の世界的な消費拡大による品薄傾向、副原料の代替エネルギーへの転換による量的減少が要因である。
	建設業（経営者）	・公共事業に依存している土木工事業者において、従業員のリストラが相変わらず進んでいる。技術者も技能者も減少し、直営で施工できる業者やしっかり施工管理できる業者は限られてきている。また、建設業界の将来を見限り、体力のあるうちに廃業を決断し、新規受注をしない業者も現れた。	
悪くなる	建設業（総務担当）	・受注価格競争が依然としてし烈ななかで、原材料や職人不足によるコストアップが見込まれ、好転の兆しは見受けられない。	
雇用	良くなる	-	-

関連	やや良くなる	新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・有効求人倍率、各企業の賃上げ状況、地価の公示などの動きから、徐々にではあるが、上昇傾向が進む。
	変わらない	人材派遣会社(社員)	・地場企業の人材確保もかなり厳しさが見られ、正社員採用までのつなぎの派遣需要が目につくようになってきた。
		職業安定所(職員)	・企業が非正規社員から正規社員へ募集を移行する動きは鈍い。長期的に見た場合、経営者にはリスクが大きいという判断があると思われる。
		民間職業紹介機関(経営者)	・求人数に大幅な増減が見られない。
	やや悪くなる	-	-
悪くなる	-	-	